

報告事項 4

愛知県幼児教育研究協議会の報告について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

平成26年3月25日

義 務 教 育 課

アプローチカリキュラム編成の手引き

愛知県幼児教育研究協議会では、平成24・25年度に「小学校教育を見通した幼児期の教育を考える 接続期における教育課程・保育課程の編成に向けて」をテーマに研究を進め、接続期における教育課程・保育課程（アプローチカリキュラム）の編成の手引き」を作成しました。

アプローチカリキュラムとは、幼児期の最終段階である5歳児の後期（10月～3月）に、小学校教育への接続のために、幼児期の終わりまでに育てほしい力を具体的に明らかにし、各園の教育課程・保育課程の改善・充実を図るためのものです。

「アプローチカリキュラム編成の手引き」は、3月末に義務教育課のホームページに掲載します。

理論編

接続期における教育課程・保育課程について

- 1 アプローチカリキュラムとは何か
- 2 なぜ、アプローチカリキュラムが必要か
 - (1) 接続期における現状の問題点と課題
 - (2) 幼保小接続で大切と考えること
- 3 幼児の発達と学びとは
 - (1) 幼児の発達の状況の把握
 - (2) 就学前の保育・子育てで大切にしたいこと
 - (3) 幼児の学びのとらえ
 - (4) 学びの芽生えを支える土台となる力
- 4 幼児期に育てたい力を確認しよう
 - (1) アプローチ期に確認したい力
 - (2) 児童期につながる「三つの力」と「三つの自立」
- 5 指導をつなげよう
 - (1) 5歳児後期から1年生に向けての指導のポイント
 - (2) 特別な支援を必要とする幼児への指導のポイント



実践編

遊びや生活の中の学び・育つ力

- 1 小学校（スタート期）へのつながりを見通そう
 - (1) スタート期につながる、アプローチ期の姿をおさえる
 - (2) アプローチ期に必要な体験を考える
幼保小のつながりを見通した実践例
- 2 アプローチ期のカリキュラムを見直そう
 - (1) 「三つの力」を教育課程・保育課程からとらえる
 - (2) 「三つの力」を育てる視点から指導計画を見直す
「三つの力」を育てるための実践例
- 3 小学校や地域・家庭と連携した取組を工夫しよう
 - 小学校との交流を生かした実践例
 - 地域とのかかわりを生かした実践例
 - 家庭との連携を生かした実践例



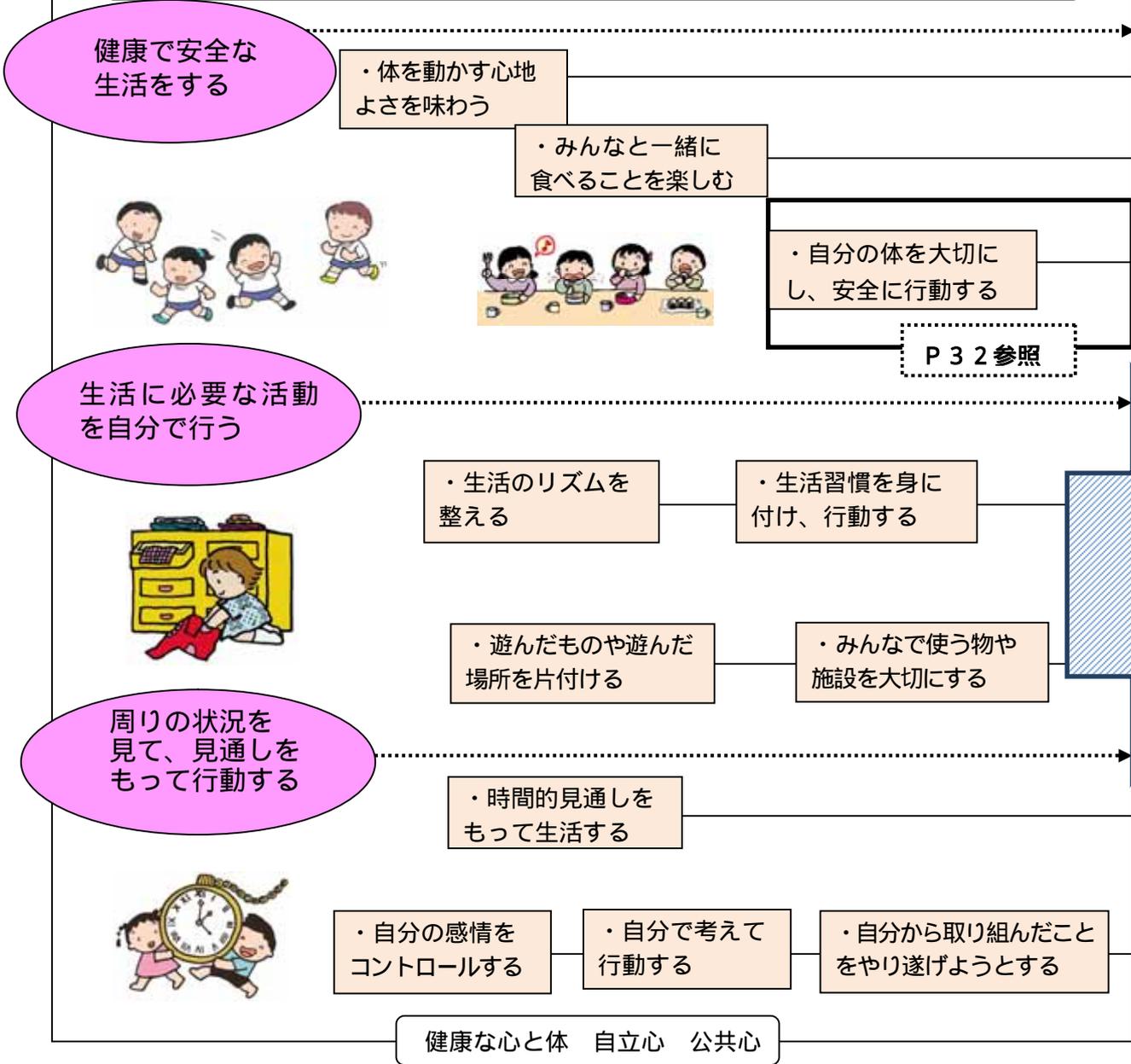
【資料】・幼稚園・保育所から小学校へつなぐ「三つの力」チェックシート

* 「三つの力」: 「生活する力」「かかわる力」「学ぶ力」

アプローチ期からスタート期へのつながり

生活する力 自分のことを自分でしようとする

幼稚園・保育所等 アプローチ期(10月～3月)の<目指す子どもの姿>

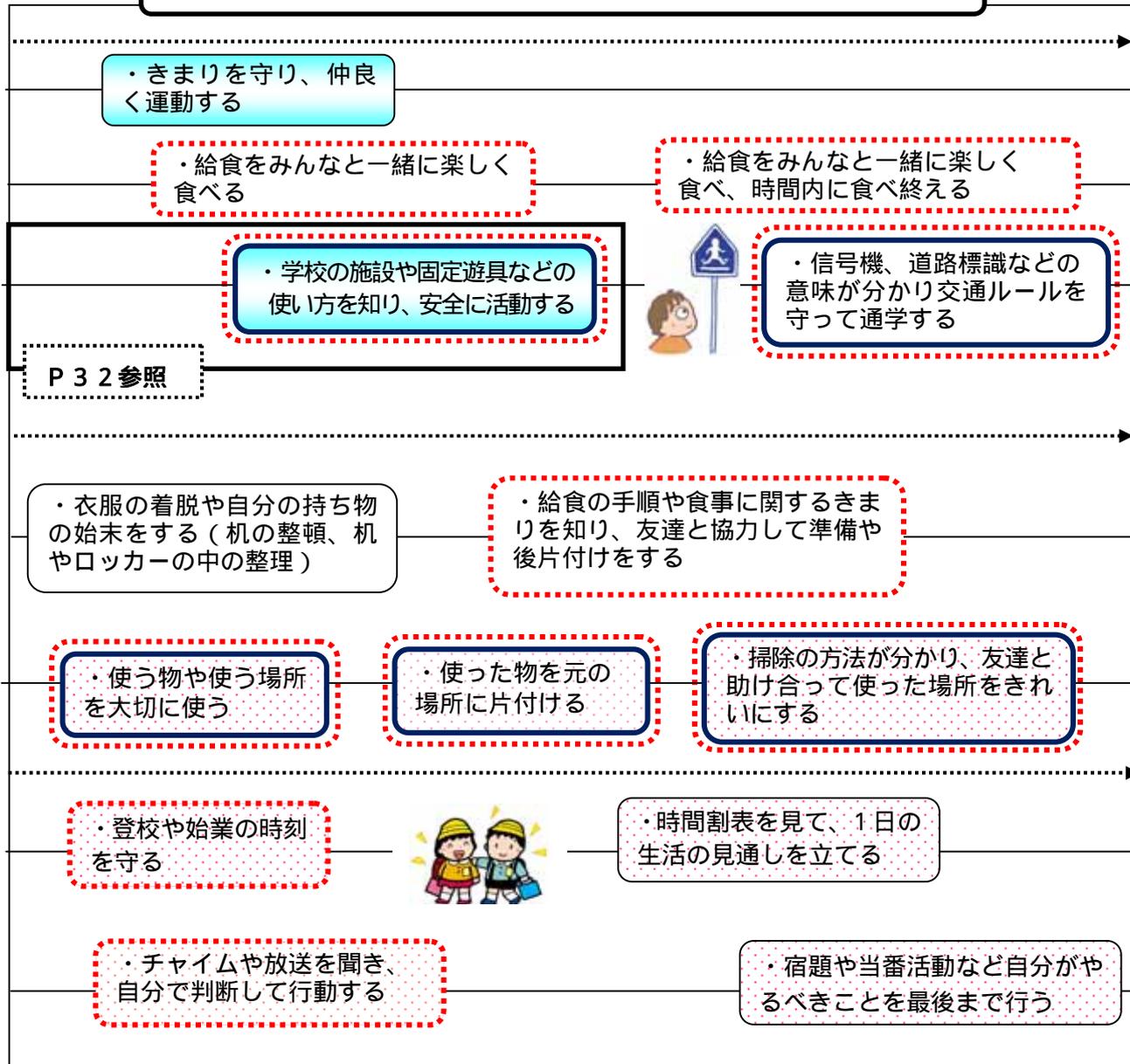


家庭との連携(アプローチ期)

- ❖ 規則正しい生活リズムをつくっていきましょう。
- ❖ 子どもとともに進んで戸外に出て遊ぶ機会をつくりましょう。
- ❖ 衣服の着脱・身の回りの物の始末など自分で行えるようにしましょう。
- ❖ 物を大切に、使ったものを元の場所に片付ける習慣をつけましょう。

自分のことが自分ででき、新しい環境に慣れ安心して生活する

小学校 スタート期（4月～5月）の＜目指す子どもの姿＞



教科等との関連

生活

特別活動

道徳

体育

日常生活の支援

（生活科を中心として、合科的に扱う教科等との関連を例示したものです。）

家庭との連携（スタート期）

- ❖ 通学経路を把握し、交通ルールを知らせ、安全に気を付けることを意識させましょう。
- ❖ 一緒に翌日の時間割を確かめ、用具の準備をしましょう。
- ❖ 家族と一緒に楽しく食事をし、保護者がマナーや食べ方の手本を示しましょう。

2 アプローチ期のカリキュラムを見直そう

(1)「三つの力」を教育課程・保育課程からとらえる

ねらい・・・ 幼児に育てほしい姿
内容・・・ 幼児に経験させたいこと

の中に「三つの力」が入っているか

自園の教育課程・保育課程で、確かめてみましょう。



生 生活する力 **か** かかわる力 **学** 学ぶ力

<参考例> 5歳児10月～3月より 抜粋

	ね ら い	内 容
10月～12月	<p>自分なりの目的をもって遊びに取り組み、実現しようとする。生 学</p> <p>学級の友達と気持ちを合わせることが心地よく感じ、学級の一員であることをうれしく思う。か</p> <p>生活の流れに見通しをもち、自分でできることを進んで行く。生</p>	<p>・自分なりのイメージが実現できるように工夫したり繰り返し行ったりしてできた喜びを味わう。生 学</p> <p>・学級の友達と相談したり力を合わせたりしながら取り組む中で、喜びや悲しみを共感し合う。か</p> <p>・友達に励まされたり自分のしたことが認められたりするうれしさを味わう。か</p> <p>・生活の流れに見通しをもち、自分たちで生活のきまりがあることに気付いて行動したりする。生</p>
1月～3月	<p>遊びや生活の中で言葉の楽しさに気付いたり、数や文字などに関心をもったりする。学</p> <p>1年生になることに喜びと期待をもつ。生 か</p>	<p>・数や数字、言葉や文字などを取り入れて遊ぶ。学</p> <p>・小学校を身近に感じたり、憧れたりして、1年生になることを楽しみにする。生 か</p>

自園の教育課程・保育課程に「三つの力」が、入っていましたか？

P15～P20の「生活する力」「かかわる力」「学ぶ力」を参考にして

生・**か**・**学**で印して確かめ、おさえていきましょう。



(2)「三つの力」を育てる視点から指導計画を見直す

<参考例> 三つの力の一つ「生活する力」について見ていきましょう。

生活する力

幼児の姿

自分なりの過ごし方を考えて生活する。

- ・ 友達と話しながら、自分たちのペースで遊んだり生活したりしようとする。
- ・ 誕生会や運動会の行事の時には、自分たちでできることを考え、出番を意識して

<指導の重点>

- ・ 友達と生活する中で、自分たちでいろいろなことを進めようとする気持ちがもてるようにする。
- ・ 様々な行事や学級みんなで取り組むことに主体的にかかわり、自分たちでできることは何か、遊びを楽しくするにはどうするかなどの話し合いをする機会をつくる。
- ・ それぞれが出すアイデアを取り上げて実現できるようにする。

「保育者のかかわり」と「環境の構成」について、おさえられているか確認していきましょう。



保育者のかかわり

・ “ああしたい”、“こうしたい”と自分で考えてやっていこうとする幼児を、あいづちを打ちながら、温かいまなざしで見守り任せるようにする。また、困っている時には一緒に考え、解決の方法を見つけられるようにする。

・ 友達とイメージを受け入れ合って、自分たちが考えたことを進めていくことができるよう、それぞれのイメージを受けとめる。そして、友達の中で気持ちや考えたことが伝わりやすいように、言葉を補っていく。

環境の構成

・ 目的やイメージに合わせて場づくりをしたり、必要な物を選んで使えるようにしたりするために、様々な物(巧技台、段ボールなど)やいろいろな素材を使いやすいように置いておく。

・ 保育者や友達の動きを見て、自分にできそうなことを見つけて仲間に加わったり、「～までに をしよう」と意識しながら進めていったりできるように、その場の雰囲気づくりや状況づくりをしていく。

アプローチ期に、それまでの体験を生かし、遊びや生活の中で、自分たちでできることを考えてやっていこうとする姿を育てていくこと、“自分たちでやった”という実感をもつことが自覚や自信となり、その後の小学校の生活の中でも、学びへの意欲や主体的に学習に取り組もうとする姿につながっていきます。



「幼児が主体的に取り組む」という視点で「三つの力」を見ていきましょう。